

インドネシア語資料・情報の利 用教育と図書館との連携

平成30年3月6日(火)

平成29年度アジア情報関係機関懇談会

南山大学図書館長 森山幹弘

(現国際教養学部・元アジア学科教授)

本日のトピック

1. アジア資料・情報の有効活用に向けて
2. 南山大学図書館のインドネシア語資料
3. 学部学生のアジア資料・情報の活用状況
4. インドネシア語資料・情報の活用状況
5. 図書館との連携の取組と課題
 1. 資料① アジア学科卒業論文題目一覧
 2. 資料② 卒論の参考文献表

1. アジア資料・情報の有効活用 に向けての問い

- ニーズを知ることが先なのか？
- どのような資料があるのかを知らせること
 - 図書館の紙媒体の資料とインターネットから得られる資料
- それらの資料にどのようにアクセスできるかを具体的に知らせる(教える)
 - 図書館利用講習会(by図書館員もしくは教員)
- 資料の読み方を教える(by教員)

2. 南山大学図書館の インドネシア語資料

- 1951年(大学創立1949年)から本格的な運営が開始(館長代理E.M.ペリー女史)
- 所蔵図書 752,900冊(2017年3月31日)
 - 和漢書 395,176冊
 - 洋書 357,724冊
 - インドネシア語資料 約13,400冊
 - 中国語資料 28,300冊
 - その他アジア言語図書 ベトナム語、タイ語、韓国語など

雑誌、視聴覚、電子媒体

- 購読雑誌種類 16,496点
 - 和漢雑誌 9,843点
 - 洋雑誌 6,653点
- 視聴覚資料 10,243点
- 電子媒体契約数 約100件
 - 電子ブック30万タイトル(内Eighteen Century Collections Online 20万点)
 - 電子ジャーナル 3万点

インドネシア語雑誌・新聞

- Kompas (日刊紙)
- Tempo (週刊誌)
 - その他に数点の雑誌あり(継続していない)
 - Wacana, Kalam etc.
- 電子媒体の雑誌
 - Indonesia, Review of Indonesian and Malaysian Affairs etc.
- マレーシア語の雑誌
 - Dewan Masyarakat, Aliran

図書館利用状況 2016年度

- 年間入館者 30万人(約1000人/日)
- 貸出冊数 11万冊
 - 教職員 6000冊、大学院生4000冊、学部学生9万冊、一般利用者7000冊
 - 2017年度は4月から10月ですでに3.8万冊増加(65年間実施していた延滞料を一時停止)
- 図書館利用講習会の実施
 - 73回1,551名の参加(初級27回、中級46回)

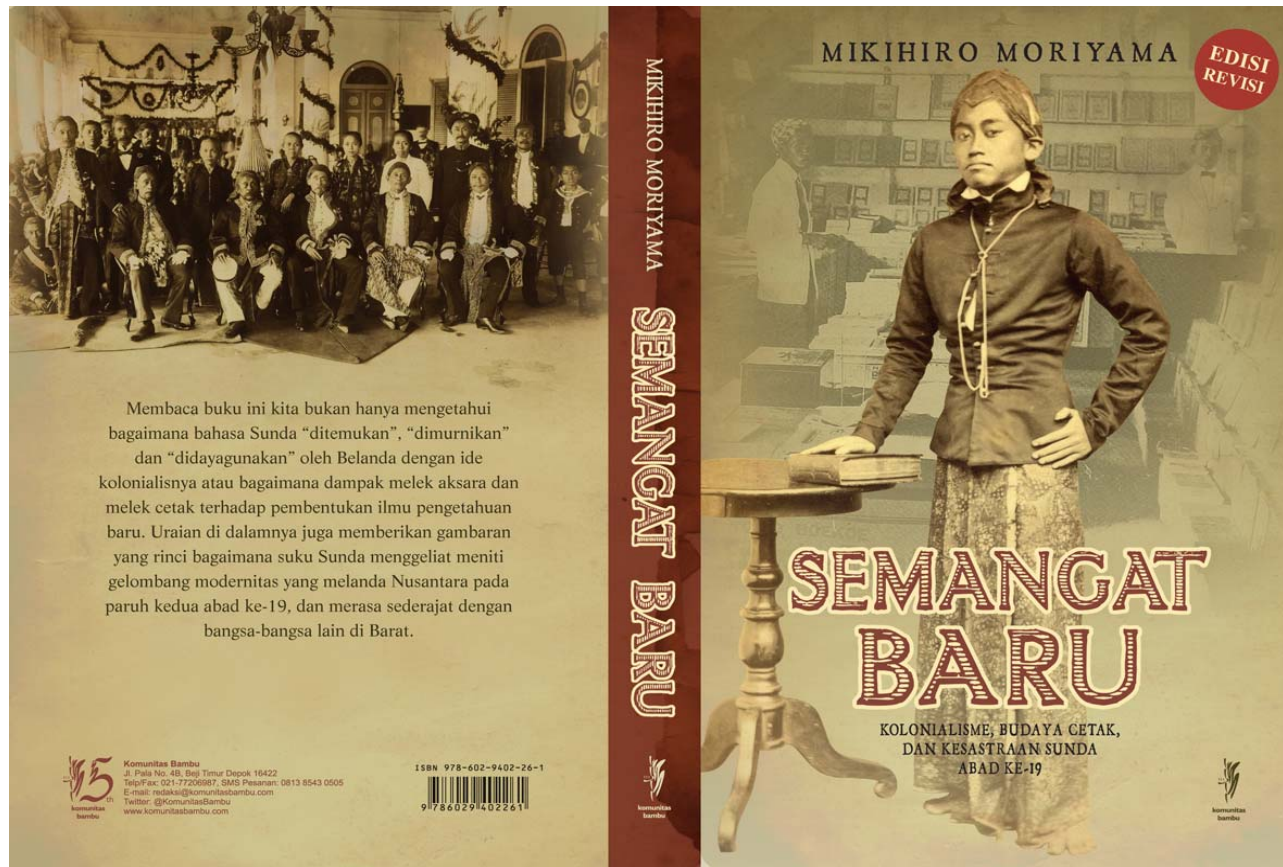
3. 学部学生のアジア資料・情報の活用状況

- 1学年50名定員(2017年から60名)
 - 1年次には中国語とインドネシア語が必修
- 24名が1年間留学(インドネシア7名、中国10名、台湾6名、シンガポール1名)
- アジア言語の文献、資料を使うことが必須
 - インドネシア語、中国語、韓国語、インドネシア語と中国語
- 15ページ以上、日本語もしくはアジア言語で執筆

卒業論文のテーマ

- 外国語学部アジア学科の2017年度卒業論文69篇(資料①参照)
- インドネシアを扱ったもの 13篇
- 中国を扱ったもの 39篇
- 台湾を扱ったもの 7篇
- 比較研究をしたもの 8篇
- その他(シンガポール、韓国)2篇

Semangat Baru



4. インドネシア語資料・情報の活用状況

- 卒論「インドネシアの地方新聞の言説—ジョグジャカルタの日刊紙クダウラタン・ラヤットを例として—」
- Keadaulatan Rakyat 人民主権
- インドネシアのジョグジャカルタの地方紙の社説を1年間分読み、統計的に分析を試みるとともに、その言説を考察した。

目次

はじめに

第1章 インドネシアにおけるジャーナリズム

第1節 ジャーナリズムと国家

第2節 スハルト体制期におけるジャーナリズム

第2章 地方日刊紙『クダウラタン・ラヤット』とは

第1節 『クダウラタン・ラヤット』の発刊の歴史

第2節 『クダウラタン・ラヤット』の現状

第3章 『クダウラタン・ラヤット』の社説の分析と考察

第1節 『クダウラタン・ラヤット』の社説の分類

第2節 「ジョグジャカルタ」に関する社説の分析と考察

第3節 『クダウラタン・ラヤット』の生み出す言説

おわりに

アジア言語資料・情報をどう使っているのか

- 参考文献表(資料②)
- 1章の文献資料
 - 図書館の図書資料が中心
 - 日本語と英語の文献を利用
- 2章以降の資料
 - インターネットを通じて入手
 - 論文
 - 新聞、雑誌などの一次資料

5. 図書館との連携の取組と 課題

- アジア言語の教育
 - 会話だけでなく、文法を学びしっかりと読解ができる能力の育成
- アジアの国を体験して興味が生まれる
 - 半年から一年の留学の勧め
- 入学時から図書館利用を習慣づける
 - 課題図書、指定図書を利用するレポートを課す

図書館と研究者との連携

- 早い時期に図書館講習会を開催し何が紙媒体としてあるのか、何が電子媒体なのかを説明する
- アジア言語を利用するための講習会は、アジア言語を活用している研究者（指導教員など）と協力して実施するのが効果的
- 図書館は枠組み作りとシステムを構築する

デジタル化の中でのアジア資料 ・情報の活用の課題

- デジタル・ネイティブ世代の学生たちをどのように図書館へ導くか
- インターネットを使って図書館の利用へ導く取り組みが必要
- インターネットで得られない資料があった場合にどうするかを指導
 - 諦めるのではなく、紙媒体を探させる指導
- 現地語の資料のデジタル化の進展
 - 紙媒体の有益な資料の減少の傾向

Hatur Nuhun
ありがとうございました

